

To our shareholders

株主のみなさまへ



株主のみなさまには、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

2016年度の当社業績につきましては、急激な円高進行の影響により前年度に対して減収減益となりましたが、中国を中心としたスマートフォン関連市場の急激な立ち上がりにより、利益は期初計画を上回る結果となりました。

2017年度の当社グループを取り巻く経営環境は、産業の高度化が進む中、世界中の製造業が生産の自動化投資を加速させるなど、良好な状況にあります。特に成長が著しい中国では、スマートフォンをはじめとする3C（コンピュータ・家電製品・通信機器）市場において設備投資拡大の動きがみられます。

このような中、前年度からスタートした中期経営計画『Dash 25』の達成を目指し、2017年度は開発力・生産力・販売力の継続的進化および新規事業の展開加速を具体的なテーマとし、持続的な企業価値の向上に努めてまいります。

株主のみなさまにおかれましては、今後ともなお一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2017年6月

代表取締役社長 小笠原浩

■ 決算の概要 (連結)

当社グループを取り巻く経営環境におきましては、国内外ともに景気は総じて緩やかに拡大しました。米国では新政権発足に伴う政策の不確実性が増したものの、雇用・所得環境の改善により個人消費は拡大しました。欧州では英国のEU離脱問題により懸念された影響が限定的だったことに加え、自動車を中心とした設備投資の回復などにより景気は緩やかな回復基調となりました。中国では生産設備の高度化・自動化などの加速により需要は好調に推移しました。国内については、為替が円高で推移したものの、中国をはじめとする海外からの需要などに支えられ、景気全般については緩やかな回復傾向となりました。

このような状況下、当社グループは新製品の積極投入による競争力・採算性の向上を目指すとともに、環境・エネルギー分野をはじめとする新規事業領域の開拓により、事業の拡大を図ってまいりましたが、第3四半期までの

円高進行が業績へ影響を与える状況となりました。

この結果、当期の当社グループの業績は、売上高3,948億83百万円(前期比4.0%減)、営業利益304億9百万円(同17.2%減)、経常利益319億63百万円(同10.8%減)、親会社株主に帰属する当期純利益203億97百万円(同8.8%減)となり、前期比で減収減益となりました。

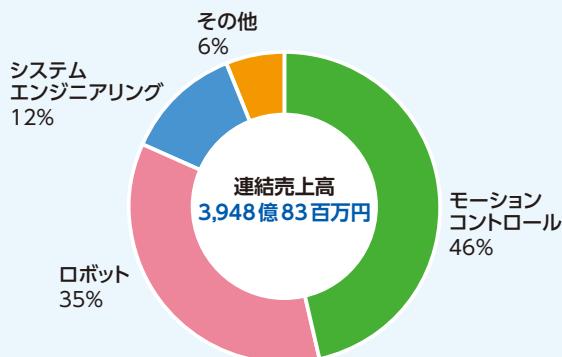
● 売上高



● 営業利益



● 売上高のセグメント別内訳



● 売上高の地域別内訳

